

【011】国際連合(以下「国連」)に関する記述として、妥当なものはどれか。

- 1 第2次世界大戦の終結を契機として、1945年、ジュネーブ会議で国連憲章が採択され、同年、加盟国51か国で国連が成立した。日本の国連への加盟は、サンフランシスコ平和条約の締結により主権を回復した年であった。
- 2 国連の安全保障理事会の常任理事国は、第2次世界大戦の主要戦勝国である五つの国で構成されている。朝鮮戦争終結以降、常任理事国には、五大国一致の原則から拒否権が認められ、1991年のソ連解体までは主に拒否権はソ連が発動しており、この間、アメリカ合衆国はこの拒否権を一度も行使していない。
- 3 国連は、創設以来アジア、アフリカなどの新興独立国が次々と加盟し、現在では加盟国のほぼ半数を第三世界の国々が占めるようになった。この結果、国連の通常経費を賄うために各国が負担する国連分担金の割合も、第三世界の国々がほぼ半分を占めることになった。
- 4 国連の平和維持活動(PKO)は、1980年代末以降、世界各地で民族紛争が多発するのに伴って活発に展開されている。我が国も、1992年のいわゆる「国際平和協力法」が成立した後に、国連の要請に応える形で自衛隊がカンボジア、モザンビークなどでPKOに参加した。
- 5 国連は、世界貿易機関(WTO)など10を上回る専門機関を有しているが、国連教育科学文化機関(UNESCO)もその一つであり、その本部はパリに置かれている。アメリカ合衆国は、UNESCOの活動が余りにも政治化していることを理由に、1980年代に脱退し、いまだ復帰していない。

【012】国際機関や国際会議に関する記述として最も妥当なのはどれか。

- 1 国際連合(UN)は、国際社会の安全と平和の実現を目的として第二次世界大戦中に発足した国際機関であり、同連合において重要な任務を担う安全保障理事会は、2019年現在、アメリカ合衆国、フランス、ドイツ、ロシア、中国の5か国の常任理事国と10か国の非常任理事国で構成されている。
- 2 国連教育科学文化機関(UNESCO)は、開発途上国における児童の教育水準・文化の向上及び福祉の増進を目的とした国連の専門機関であり、近年においては、難民支援の一環として、難民の子弟に対する教育支援活動を展開している。
- 3 主要国首脳会議(サミット)は、世界経済の主要問題を先進国間で討議することを目的とした国際会議であり、参加国は、米国同時多発テロを契機に加入したロシアを含め、アメリカ合衆国、英国、フランス、ドイツ、イタリア、日本、オーストラリアの計8か国である。
- 4 経済協力開発機構(OECD)は、関税及び貿易に関する一般協定(GATT)の強化を図ることを目的に設立された常設の国際機関であり、貿易拡大による世界経済の発展、自由貿易の堅持を基本理念としている。
- 5 アジア太平洋経済協力(APEC)は、2019年現在、アジア太平洋地域の21か国・地域が参加する地域協力の枠組みであり、域外に対しても、貿易や投資の自由化、円滑化の成果を分け合うことを目的とした「開かれた地域主義」を標榜している。

【011】 4

- 1 日本は 1956 年
- 2 拒否権は設立当初からある、アメリカも行使している。
- 3 先進国が重い
- 5 アメリカは 2003 年に復帰したが、パレスチナ加盟をめぐり、2018 年 12 月 31 日に再び脱退。

【012】 5

- 1 アメリカ、イギリス、フランス、ロシア、中国の 5 か国
- 2 UNICEF の説明
- 3 現在はロシアが資格停止されており、G7 である。オーストラリアではなく、カナダである。
- 4 GATT とは別